



※定住外国人子ども奨学金ニュースレターWeb版は個人情報などの都合上、内容を一部変更しています。

第 10 期奨学生面接を終えて

第 10 期奨学生選考の面接を 4 月 2 日（日）KFC で行いました。私は 2010 年に開催されました第 1 回 KOBE カンタービレ・コンサートに向けて、2009 年よりほたる火コンサート協会代表として企画協力の要請を受け、喜んで参画しました。その後、定住外国人子ども奨学金実行委員会委員として参加させて頂いております。この度の選考は初めて参加し、樋口実行委員長と野崎前委員長そして私の 3 名で面接を行いました。

今期の応募はブラジルにルーツを持つ人が 2 名、中国の人が 2 名そしてベトナムの人が 1 名の 5 名です。来日して約 2 年目、3 年目さらに日本で生まれ 7 年間一時帰国して再渡日している方、日本で生まれ育った方など、様々な環境で過ごしているとは思えないほどしっかりとしたひとが揃っていると思い、尋ねると今回は特にレベルが高いようです。奨学生に応募した動機、中学生の思い出、将来の夢と進路、経済状態、家族の理解など様々な視点から話を伺いました。日本語力に差があるので、各教科で問題を理解出来ないことが、成績に結び付かないように思われます。したがって、一概に通知表の成績だけで判断はできないと痛感しました。各自それぞれが自分の得意なところや不得意なところを自覚し、得意な所は伸ばし、不得意な所は克服しようとしているところは感じられました。

私は質問事項に対して、答えをもって臨むことは避け、できるだけ思いを引き出そうと試みました。全員が大学進学を希望しております。医師、通訳、ロックシンガーなどそれぞれの夢の実現に向かって、高校生活を送ろうとしているのが、固い決意として感じ取られました。面接員は奨学生 3 名の選考については時間をかけて熟慮し、選びましたが、最後まで迷い続けました。

いま奨学生のみなさんは将来の夢や進路について、漠然と思い浮かべていると思いますが、高校生活の 3 年間で現実とのギャップに悩まれる事と思います。その時こそ、定住外国人子ども奨学金実行委員会を訪ねてください。きっと道は拓かれます。

（実行委員 T.K.）

奨学生からのメッセージ

今回は、自分でテーマを決めて作文を書いてもらいました。

Vさん (10期生)

1 自己紹介

私はベトナムの国籍を持っています。2年前に日本に来ました。日本語や日本のことが全く分からない15歳の私は最初、すごくつらかったです。けれども、私はそのつらさに負けないくらい頑張りました。今では、日本語をつかって、まわりの人々としゃべり、日本のことをより深く理解するようになっていきます。

中学校では、言葉という大きな壁があったので、あまりにも静かでした。ですが、アクティブなタイプなので学校の活動ではいつも全力で頑張りました。日本語があまり分からないところで何となく楽しい一方で、ゆううつな2年間を送りました。

今、世界の問題に対して、色々な関心を持っています。世界の良い部分はそのまま応援したいですが、悪い部分には変わってほしいと思います。私の力だけでは世界を変えることができませんが、世界が変わるように、ぜひ自分も貢献したいと思っています。

2 高校に進学してどのようなことをしたいと考えていますか

高校に進学して、まず友人をたくさんつくりたいです。楽しくつくるだけではなく、たくさん友達をつくって友達からたくさんのを学びたいと思っていますからです。そして理系や英語の勉強を頑張りたいです。将来、私は医者になりたいので、そのために勉強を頑張りたいです。

ボランティア活動については、私はぜひ参加したいです。社会にでる前に社会に関する知識をつけたいと思っていますからです。

全て、自分自身と向かいあい、力を身につけ、自分の限界をのりこえるように頑張りたいです。

3 将来の夢

将来は医者になりたいです。そのために、勉強を頑張りたいです。高校2年生の時にSAT (Scholastic Aptitude Test (大学適性試験)) やTOEFLを受けて、自分のプロフィールをアメリカの大学に送りたいと考えています。

Kさん (10期生)

1 自己紹介

私はKです。中国出身で2014年7月に日本に来ました。9月から転入生としてK中学校の第1学年に転入しました。最初は、日本語がわからなくてつらかったですが、同学生の人はずごく優しく英語で話しかけてくれました。1年生の時の担任の先生は華人なので、中国語で日本の学校のルールなどを説明してくれました。2年生になると担任の先生は日本人にかわって、クラスの中にも中国語を話せる人は私1人しかいなかったの、最初はすごくこわく感じました。でも、担任の先生がよく話しかけてくれました。3学期になると、野外活動を通して、クラスの人との関係がよくなりました。そして塾に入り、受験生になりました。

3 年生の担任は 2 年生と同じ S 先生でした。塾ではいろんな勉強や模擬テストを受けさせてもらいました。自分が行きたいと思っている高校を見つけて、そのために頑張りました。今年になってから私立入試と公立入試を受けました。私は、私立入試では合格はしたのですが、希望していた特待生にはなれず、結果として入学をあきらめるしかありませんでした。だから、その失敗から経験を学んで公立高校合格のために死ぬほど勉強しました。結果として合格できてよかったです。無事に F 高校に合格しました。

2 高校に進学してどのようなことをしたいと考えていますか。

先日の合宿を通じてクラスの人と仲良くなったので、これから部活に入って他の学生とも仲良くなりたいです。学校では図書委員になったので、もっと本を読んでクラスの人に紹介したいです。国立大学を目指しているので、勉強の方も頑張らないといけません。

3 将来の夢

高校を卒業してから留学したいです。ドイツに行って医学について勉強したいです。ドイツでドイツ語を勉強し、国際的な人間になりたいです。

N さん (10 期生)

1 自己紹介

名前は N です。ルーツはブラジルで、日本で生まれました。家族は母と妹と暮らしています。中学校ではなに不自由なく楽しく過ごせました。友達もたくさんできて、いじめもない良い学校でした。ブラジル人であるということはみんな知らなかったみたいで、知っている人も、特別扱いしたりすることなく接してくれてとても楽しく生活できました。今、自分が興味関心をもっていることは、高校生活そのもので、不安もありますがみんなと仲良く過ごせれば良いと思います。今のところの目標は、勉強時間と睡眠時間の両立で、できればクラブ活動をしたいと思っています。それと成績を上げていきたいと思っています。これから頑張ります。

2 高校に進学してどのようなことをしたいと考えていますか。

自分がしたいことは、まず友人を作ることです。他には受験勉強をして、できれば部活動もしたいなと思っています。ボランティア活動にもできるだけ参加して幅広く活動したいと思っています。

3 将来の夢

将来の夢は具体的には決まっていますが、通訳などをして、普通の日本人のように安定した職に就きたいと思っています。大学はまだはっきり決まっていますが、とりあえず大学進学したいと思っています。

K さん (9 期生)

「自分にとっての家族」

自分にとって家族とは、かけがえのない存在です。毎日の「おはよう」や日々の会話などの当たり前の日常を送ることができるのは、家族がいるからだと思います。

ときには家族ともけんかすることもあるし口をきかなくなるときもあるけど、急にいなくなるときみしいと思うし、いないと困る存在だと思います。

僕の家族は普段はとても優しいですが、僕が勉強しなかったり、父の言うことを聞かなかったりしたら厳しくしかってくれます。中学生の時はそれが大嫌いで父を避けていたのですが、今となって思うのはそれも父の優しさだったのだと思います。その父の優しさがあるから僕はいい環境で勉強や、普段の日常生活を送れるのだな、と思います。僕はこれから優しい父に迷惑をかけずに今のこの生活を送りたいです。

これだけ優しく温かい家族に対して今、出来ることはたくさん勉強して賢くなって自分の志望校に合格して、大学を出て立派な大人になることです。大人になって親の顔に泥をぬることのないようにこれから成長していきたいです。

恩返しはこれだけではないです。大学を出て、ちゃんと就職して一人でも暮らせるようになることも恩返しだし、自分で稼いだお金を少しずついいから父に返したりと親孝行することも大切だと思います。でも僕が一番大切だと思うことは僕が家庭を築いて父を安心させることです。

僕の家族は父と姉しかいないので3人で仲良く手を取り合って生活して父と姉に迷惑をかけずに家族を大切にしていきたいです。

最後に父には健康に気をつけてほしいです。

G さん (9 期生)

「ニャーチャンの良い所」

私の生まれ育った場所はニャーチャンというベトナムの南部にある所です。そこは、キレイな砂浜と透き通った海がとても有名です。海水浴場は常に海外の観光客で賑わい、至るところで英語や中国語などたくさんの外国語を耳にします。子どもながらも耳をすませて聞こうとしていたことを今でも覚えています。

私は、幼い頃によくその海水浴場へ遊びに連れて行ってもらいました。学校帰りや休日など家族で出かけることが多いです。海に入ったり泥だんごをつくったり楽しい思い出がたくさんありました。

しかし、良い思い出ばかりじゃありません。私がいた時は約 10 年前なので、今みたいに整備されておらずゴミや麻薬の注射器などがゴロゴロ転がっていました。いつ踏んでもおかしくない状態でこわかったです。それが現在では安全でみんなが楽しく遊べる場所になっており、「昔の姿をみんなは分からないだろうな」と思いながら、何となく得した様な感じがします。

私はもう一つニャーチャンの好きなところがあります。それは人の温かさです。ニャーチャンに関わらずベトナムの人は全員優しく、親しみやすいのです。そこがベトナムならではの大きな魅力じゃないかなと私は思います。日本に来てから十年経ちましたがまだ一度も帰国したことがありません。したいと思っても「学校が最優先」と母は言うので、仕方なくいつも親などが帰っているのを羨ましそうに見るしかありません。将来、自分の夢が叶ってから向こうに帰って自慢げに言ってやる！！と、自分の中で密かに作戦を立てています。

それまでに、毎日コツコツとがんばってきちんと目標を持ってしっかりとやっていきたいです。

P さん (9 期生)

「勉強」

「勉強」、それはほとんどの多くの国々では小さいときから大人、社会人になるまで続くと言われていきます。学校に行き、先生の授業を受け、勉強を教えてもらっています。そして先生に教えてもらったことを自分で復習しテストを受け、テストの結果が出て自分の学力がわかります。しかし、この方法だと勉強はテストのためだけになってしまう恐れがあります。

そのようなことを中学 3 年生の受験直前の日に思いました。勉強は、小さいころからしてきていますが、それがテストのためだけなら将来、勉強はあまり必要な存在ではないと思うようになりました。実際、仕事があれば収入を得ることができます。収入を得ることができるのならば、生活もできます。多くの人は、夢と思っていた仕事に就いても何年か経てばまた新たな夢ができるので、もしそうだとしたら、仕事は何でも良いのではないのかと僕は思ってしまいました。

それまでは勉強をがんばっていたので、高校に何とか合格することができました。しかしその時に思っていたことが高校に入学してからでもまだ残っていました。高校では国際科に所属しているため、多くの友達は海外で仕事をしたり、英語を使う仕事に就きたい人が多いと思われます。その中で、既に将来の夢が決まっている人も多くいました。キャビンアテンダント、パイロット、トレーナーまたは、ファッションデザイナーといった様々な仕事がありました。そのような人たちが自分の周りに存在しています。この人たちが 3 年間の仲間になると思っていたらこの 3 年間はどんな 3 年間になるのか想像がつきませんでした。

いよいよ高校生活が始まりました。中学とは違って勉強も一瞬にして難しくなりました。また国際科に所属しているので、SGH (スーパーグローバルハイスクール) のプログラムでも忙しくなりました。大変な毎日が次々と続きました。そんな高校一年間でした。

しかし、自分が変わったことに気づきました。それは一年前の中学 3 年生だった自分の考えに対してでした。僕は、勉強というのは教科書で学び、知っているか知らないのかということだと勘違いをしていました。高校 1 年間が経ち、今になってから勉強の新たな存在に気づきました。勉強というのは学ぶことであり、学ぶことは教科書で学ぶだけでなく、自分で経験し学ぶこと、または、人とつながってお互い学ぶことであることに気づきました。このように勉強をすることは知識を増やすことだけではありません。勉強にはもっと深い意味があることが分かりました。これが自分にとっての勉強だと思えます。

K さん (8 期生)

「自分と他人が思う長所と短所」

「自分の長所と短所は何ですか？」とは誰もが 1 回は聞かれる質問だろうと思う。僕はこの質問を聞かれるたびに戸惑ってしまう。今回のこの作文をきっかけに自分自身についてもう一度見直してみようと思う。

まずは長所から。僕が思う自身の長所は、気が利く、明るい、友好的である、の 3 つだと思う。人見知りはありません、自分のほうから喋りにいき仲良くなったり、みんなと居るときは常に明るく笑ったりしている。気が利くのは、周りをいつも見ながら行動しているので手伝いや困っているときがあれば、声をかけるようにしている。

他人から見た僕の長所は、人あたりがよい、真面目、責任感が強い、集中力がある等。自分ではなかなか思わなかったことがあったので、正直、最初に聞いたときは驚いた。こういう風に思われているとは、僕自身とても嬉しく思う。

次に短所を考えてみる。ガツガツしている、思い込みが激しい、思ったことをすぐ口に出してしまう、不機嫌のときに顔に滲み出てくるところ等。挙げてみると切りが無く短所のほうが多い気がする。これらは幼い頃から親に言われ続けているものや、友人から言われているものもある。その友人からは、猪突猛進、ネガティブスイッチが入るのが早い等言われている。どれも自覚しており、直そうと毎日努めてはいるが、どうも簡単には、いかないようで苦戦している。何か1つでも1日の中で良くなることを目標に頑張ろうと思う。

今回この作文で、僕自身が思っている長所と短所と、他人から見た僕の長所と短所の2つの視点から見ることで大変嬉しく思う。また、他人がどのように僕自身を思っているのかも知ることができたので、良かったと思う。なかなか自分自身について考える機会が無かったので良い経験になり、また改善しなければいけない所も見つけることができたので、今後の生活で改め、短所より長所のほうがたくさん出てくるような人になれるよう頑張りたいと思う。

B さん (8 期生)

「あったかい家族」

僕はベトナムで生まれました。僕が生まれる前はベトナム戦争がありました。僕の祖父母は戦争から逃れて、働くために日本へ来ました。その後、僕の両親も日本へ来て、まだ2才の僕のために一生懸命、働いてくれました。

僕は保育所に行ってから、よく走りまわるようになりました。ケンカもしました。でも、よく負かされて泣いて帰っていたと、後から母に聞きました。母は仕事で疲れているのに、僕にかまってくれました。その頃は、家族皆で同じ部屋で寝ていたのだから、毎日安心して寝ることができました。

僕が小学校5年生の時に、一度ベトナムに帰りました。そこで初めてヤシの実のジュースを飲んだり、釣りに行ったりしました。特にびっくりしたのがタクシーです。ベトナムでは車や自転車よりも、バイクをよく見かけます。タクシーも、バイクタクシーがあって初めて乗りました。すこし怖かったことを覚えています。とても貴重な体験ができました。日本へ帰る前日に熱を出してしまいましたが、母が看病してくれたおかげで、無事日本へ帰ることができました。

小学校6年生のときに引っ越しをしました。でも、僕が友達と離ればなれにならないように、今の学校のままで居られるように手続きをしてくれました。

両親はいつも僕を支えてくれて、しかったり褒めたり、僕が高校生になった時には誰よりも喜んでくれました。僕の両親だけでなく、妹も僕を助けてくれました。僕が部活でうまくいかなくて、苦しんでいる時に、明るく楽しく接してくれて僕も元気ががんばろうと思うことができました。何かあっても笑顔で楽しそうにしている妹を見て、僕も笑顔になることができました。僕はこんなにも温かい家族の一員で居られて幸せです。今度は僕が家族を支えられるようにがんばっていきたいです。

D さん (8 期生)

「私の町」

私は神戸市の S という所に住んでいます。S は須磨と垂水の間にあります。海に接近していますが、塩屋のほとんどが山です。そのような塩屋ですが、私は塩屋が好きです。塩屋に住んで良かったと思います。それには理由が 2 つあります。

塩屋の魅力の一つは、自然が多いところです。塩屋は山に囲まれていて、どこを見ても必ず自然があります。私の家は駅から歩いて 30 分ほどのところにあります。ずっと山に登ったところに家があるので決して便利な場所ではありません。それでも、自然がたくさんあって、川もあって、景色も楽しめます。だから坂を毎日登るのもあまり苦痛ではありません。逆にトレーニングにもなります。中学校の時に、「塩屋の子は足腰が強い」と先生に言われました。私は今運動部に入っているの、自信になります。また、私の家の近くに“はちぶせ山”という山があります。その山はとても登りやすい山です。六甲山とつながっているの、簡単に山登りを楽しめます。毎日八つ峠山に登っている人がいるほど、塩屋の人はその山が好きです。私も何回か登ったことがあります。秋は紅葉がきれいで、春は桜もたくさん咲くので、花見も楽しめます。また頂上まで登ったときは達成感を得ることもできるし、海の景色も楽しめます。

塩屋のもう一つの魅力は、塩屋の人々は親切で温かいところです。駅の近くに、小さな商店街があります。店の人と住民の仲が良く、帰宅するときに「おかえり」と言ってくれます。また子どもとお母さんでよく店の人と話したり、遊びに行ったりします。坂が大変だから、みんなで助け合って、お年寄りの方の荷物を持ったりします。子供たちもとても元気でよく外で遊んでいて、近所の人たちと子どもたちも仲が良いです。このような素敵な町に住んで良かったと思います。坂が多くて、大変でしんどい時もありますが、それも含めて、塩屋の町は温かくて好きだなと思います。塩屋はいつでも変わらないでほしいと思います。

I さん (7 期生)

1 高校を卒業して

3 年前、未熟な私は大きな期待と不安を抱え、憧れの高校生活を始めました。私の高校では、男子は珍獣であり、私の学年では 16 人の男子しかいませんでした。そもそも人数が少ないなか、3 つのクラスに分かれていると、もっと貴重である、と後から徐々にわかりました。

入学した初日は、緊張感と違和感しかない始まりでした。教室に入ろうとした時、ドアを開ける摩擦による不協和音は、まだここに疎い私たち誰もの心に響き渡りました。「おはっ、おはようございます。」と、なんとなく距離感を置いた挨拶をすると、ボチボチ教室のあらゆる所から「おはようございます」と、返ってきました。それからは黙って教卓に貼ってある自分の席を見つけて座り、周りを見渡すこともなく、うつむいて、時間が流れるのを待つだけでした。教室のドアは何回も開け閉めを繰り返され、挨拶されるとそれにこたえ、なければ無言で顔を上げてチラッと見て、また顔をうつむけた状態に戻しました。廊下はまるで立ち入り禁止と告げられたようで、誰もが、廊下に出るのに二の足を踏んだのではないのでしょうか。教室を出れば、「誰かと鉢合わせしちゃう」、「挨拶をしなけば」と思っただけでした。

そんな気まずい雰囲気をごらんと変えてくれたのはオリエンタル合宿でした。学校へ入って間もなく 1 週間で、まだ一体感のないクラスで歌を披露したり、校歌を歌ったり、別のクラスの男子もいる部屋で一晩中寝たり、飯盒炊爨をしたりしました。

私のクラスはフォーチュンクッキーを歌い、それに合わせたダンスを夜のキャンプファイヤで披露

することになりました。が、これをうまくやり遂げるかよりも、最後まで完成できるかどうかの方が心配でした。しかし、いざ練習してみると、みんなは意外にも一生懸命練習に取り組み、2、3回の練習を繰り返しただけで一体感が現われ、休憩時にはクラスのみんな、それぞれがまだ喋ったことのない人とすっかり仲良く話していました。そして、もちろん本番では、各クラスのショーはとても良く出来上がり、盛り上がりの熱気で春寒を吹き飛ばしました。

夜、学年の男子はバラバラに、3つの部屋に分かれ、初めての宿泊をしました。もちろんキャンプファイヤに影響されて、お互いが徐々に打ちとけて、話は途切れず、気づけば太陽が窓をすり抜けて部屋に射し込んでいました。布団からなかなか出ない私たちは目が開かないくらい眠ったのですが、後悔はありませんでした。

2日目は、飯盒炊爨をした後に学校へ戻りました。とても短い時間でしたが、私たちの距離を縮めることができました。

高校2年生では、海外研修が一番記憶に残りました。学校の一大イベントである海外研修は、3つの国、アメリカ・イギリス・カナダから1つ自分が行ってみたい国を選び、現地に行き、現地で英語力を身に付けることや日本文化を広めることをする5泊7日の旅です。出発する前に滞在先のホストファミリーと手紙のやり取りはしましたが、さほど安心はできません。新しい環境で生活し、新しい人と出会うわけですが、そこでは何よりもクラスの友達を頼ることができません。バディの家に着いたのは、当日の夜9時でした。住んでいる日本の景色と大きく異なっていて、私が泊るところは住宅だけでできている街なので、夜に街を出れば、暗闇に包まれる環境でした。ホストファミリーにお土産を渡し、色々と話しましたが、やはりまだ初対面なのと、英語の語彙力がないため、会話が順調には進まず、不自然でしかない状況から私は自分の部屋に逃げ込みました。こんなにも無力を感じたことはなく、部屋で一人になると、とてつもない寂しさに包まれました。伊丹空港を出発するときは、私がおっちょこちょいであることを知っている友人が私の面倒を見てくれました（パスポートや旅券の管理など）。その時の優しさはもっと自分を寂しくさせました…。

それから、1日の休日を挟んで、現地の学校との交流が始まりました。オノマトペを使ったプレゼンテーションはとても反応が良く、両国の異文化交流を感じることができました。また、私たちのプレゼンテーションを見て笑ってくれたりして、自分たちも達成感を感じることができ、嬉しかったです。4日も過ぎた頃にはすっかり現地の子たちと仲良くなりました。わずか1週間ほどの研修でしたが、色々学べた気がしました。

卒業式からもう1か月が経ちます。卒業式の日、涙が止まりませんでした。終わりは早くも迫り、一人一人の名前が呼ばれました。

文化祭の終わり頃から、夏が徐々にやって来ると共に、受験に向けたラストスパートも始まりました。

「ああー、受験や」「あかん、受験やから」などが口癖になったのもこの時期からです。みんなそれぞれ自分の目標を見つけ、それに向かって頑張っている雰囲気が漂っていました。朝から、教室へ入ると、いつも自分よりも早く教室に着いている子がいました。勉強時間を競争するように、前日より多く、先週よりも多く、そしてあの子よりも多くと、切磋琢磨それぞれが必死に勉強しました。正直に言いますと、受験はつまらなくて、しんどくて、めんどくさいものでした。しかし、自分が決めた目標、ライバルに負けたくない、歯を喰いしばって、乗り越えました。

3年間では、沢山の思い出ができました。言葉ではうまく伝えられないものは山ほどあります。今思えば、些細な出来事にも感動させられることがあります。もっと時間がゆっくり流れればいいのに、と願ったばかりです。この3年間、手に入れた思い出は、決して忘れることはなく、いつかまた将来、今日のことをふっと思い出し、微笑むことができることを願います。

2 今後の進路について

4 月からは、航空保安大学校へ進学します。あまり想像がつかず不安ですが、自分がやりたいことができたらしうれしいです。そして寮に入ることになるので、一人暮らしを通して、生活をきちんと送りたいです。

語学に興味があるので、英語はもちろん、空いている時にはほかの言語の勉強もしてみたいです。

3 後輩へのメッセージ

勉強は大変ですが、部活には入ってほしいです。私は3年間バスケット部に所属しました。学校の生活とはいえ、普段とは少し違う感じの生活でした。1 日何時間も同じコートで練習すると、ほんとに仲良くなるものです。お互い励ましたことやお互い切磋琢磨したこと、共に汗を流した記憶はかけがえないものです。勉強との両立はほんとうに難しいですが、きっと後悔はしません。

そして、勉強も大変です。特に私と同じような帰国子女はある意味スタートラインが遅れています。特に模試などでは、自分の成績は学校のテスト程よくない、全然成績が伸びないなど、恐ろしいほどダメージを受けます。苦手な科目はいつまでたっても苦手、得意な科目は少しずつ標準に近づいていくことはあります。実際私もそうでした。私が思うに、苦手な科目も、平凡になっていく得意な科目も、一度最初からやり直してみてもいいのではないでしょうか。中国から日本に戻った高校入学前の頃、私は小学生のドリルを勉強していました。なぜ、日本語が喋れる自分はこんな基礎な勉強をしなければならないんだ、と悩むばかりでした。私は私自身のプライドがありました。「こんな基礎的な勉強をしているなんて恥ずかしい、私はもっと頑張ってもっと上級者の勉強がしたい！」と思っていました。が、身の程を知らない自分に戻ってきたのは、高校初のテストで国語の偏差値が 26.7 でした。全身に冷たい水をかけられたように、心もどん底に落ちました。

自分は、もっと落ち着いて、一歩ずつしっかりと歩むべきだったと気付きました。それから、自分はもう一度基礎の勉強を始めましたが、受験には間に合わなかったようです。それらの勉強を通して、自分にしか理解できない、諦めない心と報われた結果を得ました。まだ私たちは若いので、思い切って自分の目標にぶつかっていきましょう。何度でも繰り返すことはできます。もしその努力が正当であれば、きっと何かが先で待ってくれます。頑張ってくださいね。

S さん (7 期生)

1 高校を卒業して

高校1年生では、生徒会に力を入れ、自分の時間を沢山持てた1年を過ごしました。過去の経験から、悩むことも多々あり、家庭環境、勉強、友人関係、食生活など、人生の中で一番ストレスが大きかった一年であったと思います。

高校2、3年生では理系に進み、自分の進路も見えてくるようになりました。1年生の頃の悩みやストレスは軽減したものの、やはり少し残像を残し、努力して奮闘するものの、先の見えないもやもやした心持ちのまま卒業をむかえてしまいました。奨学金の寄付者や関係者の皆様には頭の上からない気持ちと感謝の気持ちでいっぱいです。

2 今後の進路について

予備校へ通う予定です。生活環境も大きく変える予定なので、心機一転、新しい、充実した、確実な前進を実現させてゆきたいです。

3 後輩へのメッセージ

自分のそばにいてくれる、ずっと愛してくれる人を大切にしてください。実際に第三者の立場で見たり、物事が過去形にならないと、人は事の大きさ、大切さに気づきません。本人が思っている以上に物事の本質は重大であることが多いです。自分の力になろうとしてくれている方への感謝を忘れずに、自分が後悔しない未来に進んでいってください。

Jさん (7期生)

1 高校を卒業して

1、2年生だった時の高校生活の記憶をなくしており、思い出せないのですが、3年生として、充実した濃い1年を過ごしました。自分をサポートしてくれる人に囲まれて、3年生としての高校生活を送りました。自分の説明しにくい事情を理解してくれた友達、分からないことがあったら、サポートをしてくれるクラスメイトがいて感謝の気持ちでいっぱいです。

最も大変だったのは、勉強の面でした。基礎からやり直さないといけないことが多く、焦る日々を過ごしていましたが、丁寧にわざわざ自分のために時間を作って、勉強を教えてくれた先生方のおかげで無事に卒業できました。

私は内向的な面があって、自分が困っている時や悩みがある時は自分一人で抱えてしまうことが多かったのですが、3年生のときの生活はいろんな人に支えられて過ごしていました。高校生活の最後の一年を通して、自分が少しだけでも人に素直になったと思います。本当に自分を大事にしてくれている仲間がいることに気付いて、人の助けを求められるようになりました。

いろんな面で大変だった3年間を過ごして、自分はどんな試練にでも向き合えることができる自信がつかしました。夢に向かってこれからも頑張ります。

2 今後の進路について

神戸電子専門学校の IT スペシャリスト学科に入学することになりました。自分が趣味から始めたプログラミングを専門的に勉強したいと思います。学校の中で多彩な学科があるので、一緒にコラボレーションをして、ソフトウェア開発などが出来たら嬉しいです。今まで自分と同じ趣味のクラスメイトがあまりいなかったもので、IT に対しての情熱を分かち合える仲間を出来るだけ作りたいと思います。

IT 業界では、専門的な知識だけでなく、コミュニケーション能力が重要です。授業でのグループプロジェクトの他に学校帰りに接客を中心にするアルバイトをして、自分のコミュニケーション能力を高めたいと思います。

自分の将来の夢に向かって、これからもアルバイトも勉強も頑張ります。

3 後輩へのメッセージ

いろんなことに挑戦をしてみてください。高校に入って、進路のことについて悩んだりすることが多いと思うのですが、あせるより自分の本当にやりたいこと、熱心になって勉強したいことを探してください。それが分かってきたら、工夫、計画もしやすくなって、自分の目標の達成に一步でも近づくとと思います。最後に、自分のために勉強してください。これからもいろんな「壁」を乗り越えないといけないと思うのですが、自分に自信を持って諦めずに頑張ってください。